

吹奏楽におけるコンサートマーチと行進曲マーチの比較

青木 彩絵子 笠原 麻由 金光 里奈 妹尾 彩也子 三竿 ひなの 渡辺 佳央理

要旨

吹奏楽で演奏されるマーチには、主に演奏会などで演奏されるコンサートマーチと、行進の伴奏として演奏されるマーチがある。この二種類を聴いたときの印象の違いを、音価に焦点を当てて調査したところ、コンサートマーチでは流れるような表現をするため音価の短い音符が用いられ、行進用マーチではテンポ感を表現するため音価の長い音符が用いられているという結果が出た。

キーワード：コンサートマーチ，行進曲マーチ，音符，強弱

1 序論

私たちは本校吹奏楽部に所属しており、普段から様々な楽曲を演奏している。その中で演奏頻度の多いマーチについて焦点を当てた。マーチには、ステージにおいて演奏されるマーチと屋外に行進において演奏されるマーチがあり、聴いたときに様々な違いを感じる。そこで、本研究では、この二種類のマーチについて楽譜をもとに、その違いを探った。

2 仮説の設定と検証

(1) 仮説の設定

印象の違いの要因が何によるものか、次の仮説を設定し、楽譜に記された音符の数を分析することにより検証することを試みた。

【仮説】 (1) コンサートマーチは行進用マーチに比べて16分音符など音価の短い音符の割合が多い。
 (2) コンサートマーチはオーケストラでの演奏をイメージしておりブラスバンドでの演奏用に作られた行進用マーチに比べアーティキュレーションなどの指示や速度の変化が多い。

(2) 検証方法

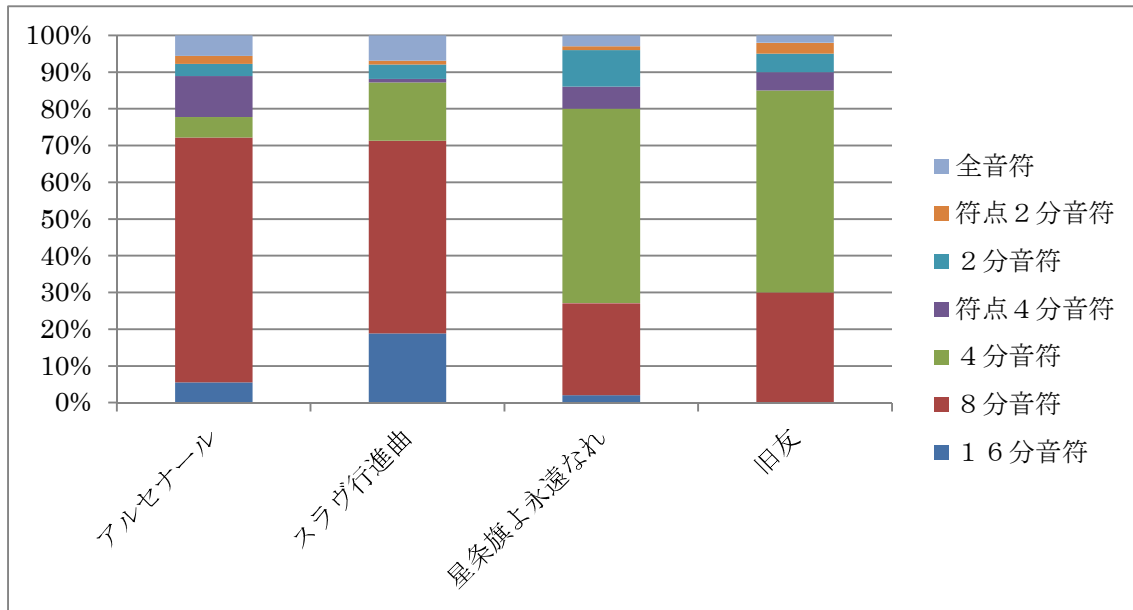
表1 調査したマーチの曲名

コンサートマーチ (曲名)	行進曲マーチ (曲名)
アルセナール	星条旗よ永遠なれ
スラヴ行進曲	旧友

上記の四曲の楽譜(吹奏楽譜)を用意し、楽器ごとに音符を数えその割合を調査した。音符は16分音符，8分音符，4分音符，符点4分音符，2分音符，符点2分音符，全音符の7種類に分けて数え、楽譜中の全ての音符に対する割合をパーセンテージで表記する。各楽器を低音(チューバ・コントラバス・バスクラリネット・バリトンサックス)，中低音(テナーサックス・ホルン・ユーフォニウム・トロンボーン)，中音(クラリネット・アルトサックス・トランペット)，高音(ピッコロ・フルート)の4つのグループに分けて表す。

(3) 結果

上記の検証方法により、音符の割合を下に曲ごとにグラフで表す。



4 結論

二種類のマーチを聴いた時に違いが感じられるのは、その目的が集団が行進するための伴奏音楽か、行進の情景を描写した音楽かと言える。

①共に複合三部形式で作られているものの、行進するためには細かなパッセージよりビートを重視するため、拍の基準となる音符の音価が長く明確なテンポ感を表現する。

例えば2/2拍子 (アラ・ブレーベ), 6/8拍子。

それに対し、コンサートマーチは元来オーケストラでの演奏の影響が強く、弦楽器の役割をフルート属・クラリネット属・サクソフーン属が受け持っているため、流れるような表現をするよう音価の短い音符が用いられる。例えば2/4拍子, 4/4拍子。

②行進用マーチは定められたテンポを一定に保ち演奏されるが、コンサートマーチの場合は、作曲者の意図により情景を表すために変化することが少なくない。また、行進用マーチにおけるアーティキュレーションは、スタッカートやアクセントといった記号が多用されるのに対し、コンサートマーチでは、スタッカートやアクセント以外にマルカートやスラーなど発想記号が多用される。

以上のことにより、二種類のマーチを聴いた時の違いは、使用される音符の音価や記号によるものだと実証できた。